



武蔵境の牧歌的な土地で 命の大切さを見つめてきた「日獣大」130年の歴史

日本獣医生命科学大学の本館。明治42（1909）年に建築された東京市麻布区役所の建物を移築したもの。平成12年度の「第1回たてもの武蔵野大賞」の一般部門で大賞を受賞した。

武蔵野 History

武蔵野にまつわる歴史を
楽しみながら学ぶ

武蔵境駅の南口から三鷹駅方面へ歩くと、緑の木立のなかに建つレトロな建物が現れます。明治14年に設立され、今年130周年を迎えた日本初の私立の獣医学校、日本獣医生命科学大学（境南1-7-1）です。現在の場所に移転したのは昭和12年のこと。以来、約75年間にわたり地域の人々に「日獣大」として親しまれてきた同校の歩みをたどってみましょう。

獣医師の育成を目指して

日本初の私立獣医学校が開学

19世紀の後半、明治維新によって世界への扉を開いた日本政府は欧米諸国に追いつこうと、さまざまな西洋文明を取り入れていきました。陸軍でも軍馬の育成に力を入れ、馬の健康管理には西洋獣医学を採用。陸軍馬医学舎では、青年たちが強く豊かな日本を築くために獣医学を必死に学んでいました。当時は、獣医学の学校といえば、この陸軍馬医学舎と駒場の農事修学場（後の東京大学農学部）ぐらいしかありませんでした。国を挙げて富国強兵を進める明治政府は、畜産も支援していましたが、病疫から家畜の健康を守る獣医師の数が絶対的に足りないというのが実情でした。

そうした状況のなか、国の繁栄のために獣医師を育てようという理想を掲げて、立ち上がったのは9人の若い獣医師たちでした。明治14（1881）年9月15日、

後に日本獣医生命科学大学（以下、日獣大）となる私立獣医学校が開校しました。場所は護国寺（文京区小石川）の別院で、発起人総代理であった田澤直孝は21歳という若さでした。東京府知事への設立申請からわずか数日間で認証されたことから、当時どれほど獣医師が待ち望まれていたかが伺われます。ただ、学問のためとはいえ動物を殺すことを禁じている仏教の寺で動物の解剖などを行えるはずがありません。近隣に協力者を得て、解剖を行う場所を提供してもらっていたそうです。

第1回の入学生17名のなかには後に日獣大の第4代校長となる梅野信吉がいました。梅野は学校の理想どおり、卒業後は郷里の福岡で数多くの獣医師の育成に努めました。その後、明治25（1892）年に再び上京し、伝染病研究所にて研究者としての道を歩み始めます。そして、大正8（1919）年には、世界的な医学者である北里柴三郎のもと

で狂犬病ワクチンの開発に貢献し、狂犬病撲滅に大きな功績を残しました。

のどかな武蔵境へ移転 のんびりとした校風を培う

その後、2度の休校と市ヶ谷や目黒の武蔵境に移ってきました。当時、武蔵境駅の南側には改札口もなく、ただひたすら広大な農地が広がっていました。

昭和12年といえば、日中戦争が勃発した年。その後、日本は太平洋戦争へと向かっていきます。翌昭和13年には日本高等獣医学学校に改称。獣医学学生は兵役を猶予されていましたが、戦争も末期になると、学徒出陣が行われ、授業も行われなくなっていました。昭和19（1944）年に日本獣医畜産専門学校に学校名を改称。そして、昭和20（1945）年8月15日の終戦を迎えます。その後昭和24

むさしの今昔物語 ～日本獣医生命科学大学の巻～

日獣大は最近まで、土の地面に木造校舎というレトロな印象が強いキャンパスでした。当然ながら、動物も飼育しており、ときには脱走騒ぎもあったようです。しかし、この10年間ほどで近代的な施設へと大きく変わりました。

昔



グラウンド側から見た本館とヴォーリス館。手前には土のグラウンドが広がる。ヴォーリス館は、著名な建築家、ウィリアム・メレル・ヴォーリズが建てた多摩地域で数少ない洋館建築。実習室として建てられました。



開校当時の教師と生徒

今



新校舎（A棟・B棟）は平成18（2006）年に完成。キャンパス内には、付属動物医療センターや生命科学共同研究施設など近代的な施設が整備されています。

（1949）年に日本獣医畜産大学となります。この学校名の時期が一番長く、平成17（2005）年までの57年間に及びました。昭和27（1952）年には日本医科大学と合併し、獣医学と医学が補完し合う画期的な試みとして注目を浴びました。

昭和40年代の高度経済成長期から平成初期のバブル経済の絶頂期に向かつて東京の街は変貌していきました。しかし、日獣大には時代の変化とは線を画すような、牧歌的な時間が流れ、武蔵野市の地域の人々に温かく見守られながら、のんびりとした学校としてのイメージが定着していったのです。

未来を見据えた改革を行い 時代の求めに応える人材を創る

そんな日獣大は、この10年間、大きく変化してきました。平成11（1999）年

に、池本卯典いけもととしのり氏が学長に就任。池本学長は日獣大の未来を見据えた改革に乗り出します。まず、学部学科名から「畜産」という言葉を外し、「食品科学科」や「動物科学科」へと変更し、学部も「獣医学部」と「応用生命科学部」へと改めました。併設する動物病院も「付属動物医療センター」とし、新しい校舎を建てるとともに最新鋭の機器も導入しました。すべての学科で大学院制度が導入され、高度な研究を行う環境と優秀な研究者を輩出する体制が整えられていきました。そして、平成18（2006）年には「日本獣医生命科学大学」へと校名も変更されたのです。

現在は、地元根ざした大学として、武蔵野地域学長懇談会の参加、武蔵野地域自由大学、小・中学生の土曜学校での講座など、地域への貢献活動も行っています。

今、人間と動物の共存にまつわる課題は山積しています。狂牛病や鳥インフルエンザのような人獣共通感染症。里山の荒廃によって生じるイノシシやクマなどによる獣害。そしてペットを失ったことで飼い主が精神のバランスを崩すペットロス症候群。人間の幸福のために、動物の健康を育んでいく人材を輩出する日獣大はこれからも重要な役割を果たしていくといえるでしょう。